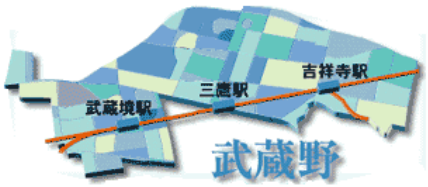
第４回　５市市長が語る地域自治体連携シンポジウム

１　武蔵野市の紹介



武蔵野市は、戦後間もない昭和 22（1947）年 11 月 3 日に、東京都で三番目の市として誕生しました。人口約 14 万、面積 10.73 ㎢（東西 6 ㎞、南北 3 ㎞）、全国 789 市の中で第二位の人口過密都市です。また、23 区と多摩地区の接点に位置しているため、利便性と自然環境を享受しやすい都市でもあります。市域は狭いながらも、コンパクトさを活かした利便性の高い都市、緑豊かで良好な住環境が広がる暮らしやすいまちとして評価されています。

（１）個性豊かな三駅圏

武蔵野市は中に、ＪＲの駅が吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅と３駅あり、市域は各駅からほぼ２㎞圏内でほぼ網羅されます。市域全体が路線バスやムーバス路線で網羅され、極めて交通利便性が高くなっています。

【吉祥寺エリア】

都内でも有数の商業・金融・文化・情報を発信するまちである一方で、駅周辺を離れると、落ち着いたたたずまいの住宅地でもあります。近くに井の頭公園があり、多くの来訪者を迎える市の東の玄関口であり、テレビや映画のロケ地としても利用されています。

住みたいまち　吉祥寺

【中央エリア】

三鷹駅北口を玄関口とし、市役所をはじめ、警察署、消防署などの行政機能、芸能劇場、市民文化会館、図書館、総合体育館といった文化・スポーツ機能などが集積する地域であり、良好な住宅地も広がっています。

【武蔵境エリア】

武蔵野の原風景が残る国際色豊かな学術ゾーンとして発展。JR 中央線と西武多摩川線の連続立体交差事業の完成や武蔵境駅南口「ひと・まち・情報　創造館武蔵野プレイス」の開設により、さらに進化を続けています。

武蔵野プレイス（武蔵境駅南口）

（２）平和を武蔵野から世界へ

戦時中、武蔵野の地にあった軍需工場の中島飛行機製作所が、首都圏で最初の本格的な空襲を受けたのが昭和19年11月24日。平成23年に、11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定。本年８月には、広島市で開催された平和市長会議総会に市長が出席し、都市連携による平和メッセージのさらなる発信を提言しました。

平和市長会議で都市連携を提言

（３）安全・安心のまちづくり

本年２月末に発生した吉祥寺強盗殺人事件を踏まえ、吉祥寺緊急安全対策会議を設置しました。商店街における防犯カメラの増設や街路灯のLED化を促進。従来行っていたつきまとい勧誘防止指導員に加えて、深夜帯も含む吉祥寺ミッドナイトパトロールを実施するなど、さらなる安全対策を重ねています。

吉祥寺ミッドナイトパトロール

（４）保育園待機児緊急対策

保育園待機児の解消に向けて、保育園待機児緊急対策本部を設置しました。認可保育園定員のさらなる弾力化やグループ保育室の拡充、プロポーザルによる認証保育所の誘致、認定こども園の開設などの対策に取り組んでいます。今後の保育需要の増加を見据え、多様な保育施策を検討していきます。

待機児緊急対策を実施

（５）シティプロモーション

武蔵野市第五期長期計画において、「情報の収集・提供機能の強化」を重点施策として掲げており、ツイッターやフェイスブックも活用し、市政情報を発信しています。また、本年７月に一般社団法人武蔵野市観光機構（武蔵野商工会館１階）が発足し、まち歩きツアーやロケ支援事業などを展開しています。

市役所市長公室でのドラマロケ

２　環境と共生する持続可能なまちづくり

（１）緑を基軸としたまちづくり

① 武蔵野市民緑の憲章

全国に先駆けて、平成 48 年に「武蔵野市民緑の憲章」を制定し、先人から引き継いだ「緑」を次世代に継承するため、市民と市が一体となって、「緑」を基軸としたまちづくりを推進していきます。緑被率は、昭和 47 年に 33.3%でしたが、平成６年には 22.6%となり、平成 22 年は 25.3%となっています。

② 吉祥寺の杜宮本小路公園 来年４月開園

吉祥寺の杜宮本小路公園は、吉祥寺駅から徒歩７分、宮本小路と五日市街道に面した約 1700 ㎡の公園です。計画地は、旧吉祥寺村時代から地域と深い関わりを持つ旧宮崎家の跡地で、吉祥寺村開拓の発祥地ともなった場所です。昨年７月から５回にわたるワークショップを開催した後、パブリックコメントを経て、基本プランをまとめました。来年４月開園予定です。

吉祥寺の杜 宮本小路公園 基本プラン

② 広域の緑の保護・育成

自然環境の恩恵を享受しながら活動する都市の責務として、これまで「二俣尾・武蔵野市民の森」や「奥多摩・武蔵野の森」「武蔵野水道・時坂の森（桧原村）」といった東京の森林（緑）を積極的に保全・育成してきました。これからも、森林が持つ水源涵養、地球温暖化防止などの多面的機能に注目しながら、自然体験学習の機会を提供するとともに、さまざまな主体と連携することにより市域を超えた森林保護・育成に取り組んでいきます。

二俣尾・武蔵野市民の森　自然体験

（２）雨水循環型のまちづくり

① 大型雨水貯留浸透施設による浸水対策

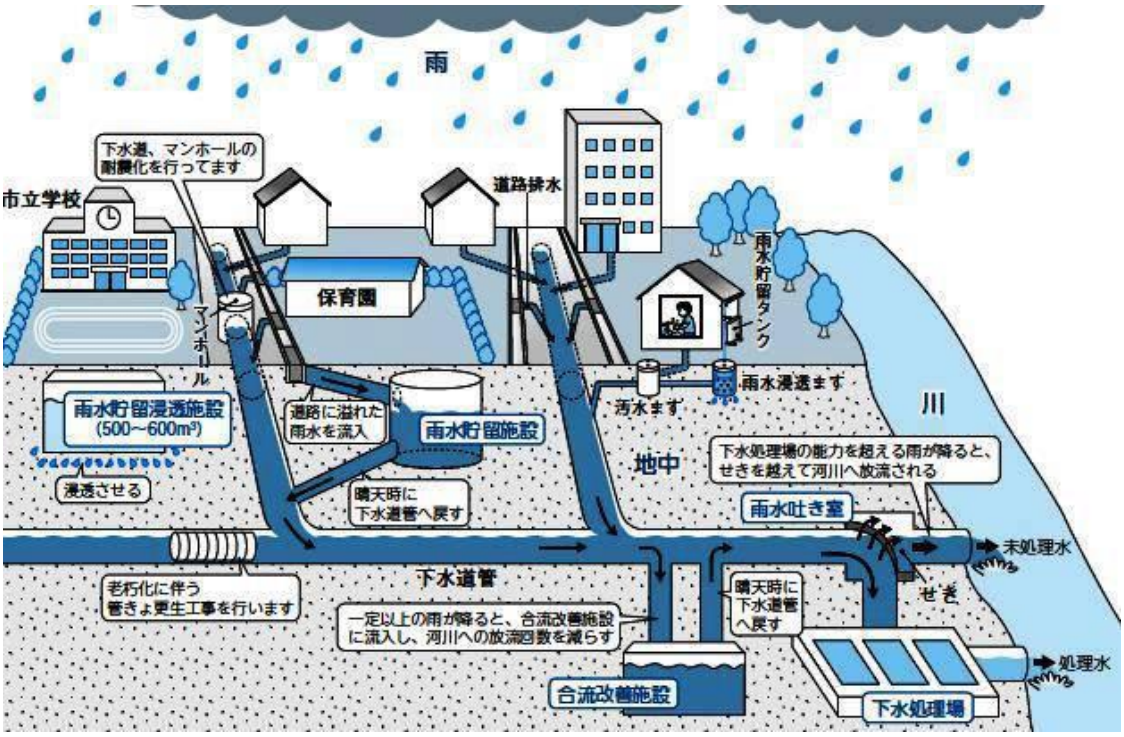
都市化の進展により雨水が地下に浸透せず、ほとんどが下水道に流入するため、集中豪雨などによる浸水被害が発生しやすくなっています。平成 18 年度から市内の小・中学校に雨水貯留浸透施設を設置しています。今年度で、市内 18 校のうち 12 校に設置完了となります。大雨時に雨水を一時的に貯めて浸水被害を軽減するとともに、地下水の涵養、水質の保全など「水の循環システム」の改善を図ります。

② 合流式下水道改善事業

武蔵野市内の下水道の約９割が、雨水と生活排水などの汚水を同じ下水道管で流す「合流式」で整備され、下流の処理場の能力を超える雨が降ると、未処理のまま河川に放流されてしまいます。武蔵野市では、河川への放流回数を少なくするため、雨天時に一時的に汚水混じりの雨水を貯留させる施設の工事を進めています。

③ 雨水浸透ますの設置促進

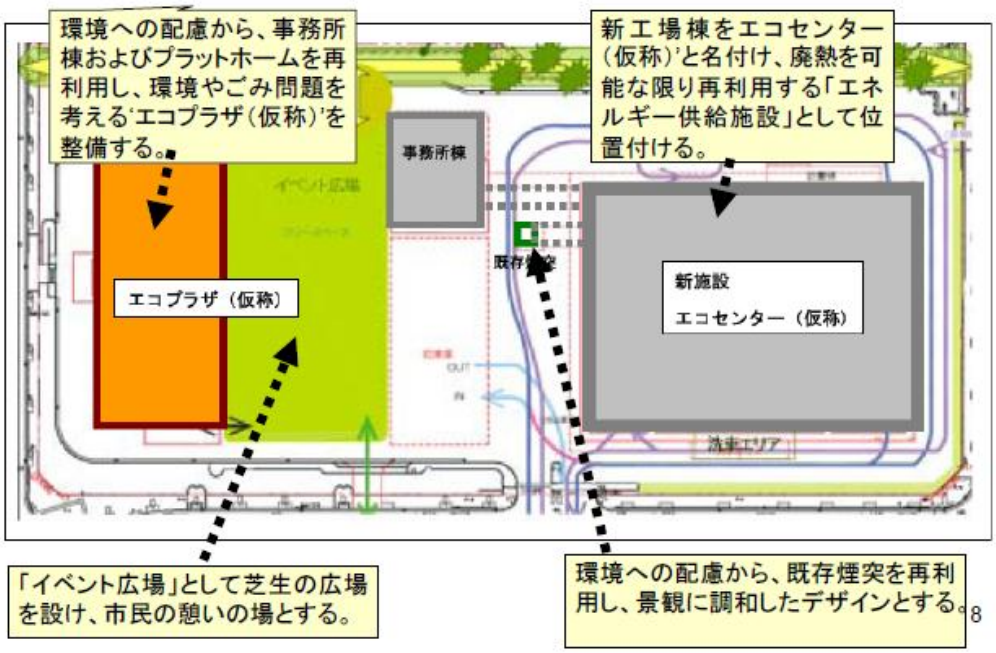
屋根などに降った雨水を集めて地面に浸み込ませる設備で、下水道管への雨水流入量を減らすことができます。既存住宅への設置では附帯工事費も助成対象としています。現在、武蔵野市内では個人住宅および公共施設に約 28,000 基の雨水浸透ますが設置されており、10 年後には約 50,000 基の設置を目指します。



（３）資源循環型のまちづくり

現在の武蔵野クリーンセンターは、昭和 59 年に稼働を開始し、設備の耐用年数が近づいていることから、新クリーンセンターの建設事業の検討を市民参加で進めてきました。本年７月に新施設の整備・運営を行う事業者が決定し、建設事業を開始しました。新施設の設計、施工から完成後 20 年間の運営を一括発注するＤＢＯ（デザイン・ビルド・オペレート）方式を採用し、事業者提案の審査点と入札金額の価格点の合計点数によって落札者を決定する総合評価一般競争入札を実施しました。

環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり、災害に強い施設づくり、景観および建築デザインなどに配慮したコンパクトな施設づくりなどをコンセプトにしています。



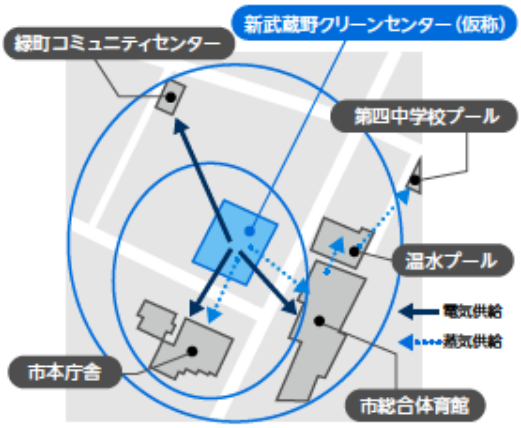
（４）省エネ・創エネ・新エネルギー活用

武蔵野市は、環境と共生する持続可能な都市を構築し、次世代に良好な環境を引き継ぐため、さまざまな施策を実施しています。

① 新たなエネルギー活用の検討

昨年度、「新たなエネルギー活用検討委員会」を設置し、全域が市街化されたエネルギー消費型都市の武蔵野市におけるエネルギー活用のあり方について検討し、方向性が示されました。これを受けて、市民・事業者・行政は、エネルギー消費を低減させる省エネ・創エネ・エネルギーの効率的利用の取り組みと、緑・水・大気など環境を構成する要素を保全・創出する取り組みを、まちづくりと連動させて展開していきます。具体的には、住宅地では、戸建住宅などへのスマートメーターの普及を踏まえた新たなエネルギー活用の推進、商業施設では、建物改修にあわせた省エネ化・エネルギーの効率化を推進します。公共施設では、市域での新たなエネルギー活用導入を誘引するため、先駆的な取り組みを検討します。

現在のクリーンセンターはごみを燃やした熱を蒸気で市役所や総合体育館、第四中学校プールに送り、給湯や冷暖房、温水プールの熱源に活用しています。建替後の新クリーンセンターでは、ごみ発電設備を導入し、電気も市役所、総合体育館、緑町コミュニティセンターに供給します。ガスコージェネレーション設備も導入し災害時にも発電・エネルギー供給が可能なシステムとします。



② 太陽光発電システムの設置促進

平成６年から、公共施設に太陽光発電システムを設置しています。市庁舎や市立の全小学校 12 校と中学校３校など 24 施設への設置が完了しています。校舎屋上に 30kW のシステムを設置することで年間約３万 kWh の発電を見込んでおり、学校の年間の電気使用量の７分の１程度をまかないます。住宅用太陽光発電システムの助成も行っています。